

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	令和2年3月31日
団 体 名	中込商店会協同組合		
事 業 名	総合的な学習の時間での中込中学校との連携による、中込商店街活性化のための発信事業		
対象経費	2,225,520 円	支援金交付 対 象 経 費	278,260 円
支援金額	278,000 円		

事業の目的・内容	<p>目的</p> <p>佐久平駅周辺や佐久インターチェンジ周辺の一大商業集積化に加え、ネットを通しての消費行動への止まることのない移行が既存商店街の体力を一年一年奪い続け、市内各地において廃業に追い込まれる商店の出現で商店街は機能喪失寸前の状況に追いやられている。</p> <p>大正4年の旧国鉄小海線開通を契機に中込駅を中心として都市化が進み、中込地区のみならず、平賀、内山地区住民の最寄りのお買い物場として栄えてきた中込商店街も、他地区の商店街同様に経営不振や後継者難で商店街としての存立の危機に瀕している。</p> <p>そんな状況下において当商店会協同組合は、近隣の商店が皆無状態の平賀、内山地区の高齢者や移動手段を持たない住民向けに、2年続けて無料のお買い物支援ジャンボタクシーを運行し、衣食住に関わる商店が少なからず残っている中込商店街のお買い物やお食事を楽しんでもらおうと画策してみたが、残念なことに利用者は想定以下の数字に終始してしまっ</p> <p>た。</p> <p>思惑が外れた要因は、一日一便の運行ダイヤによる使い勝手の悪さを筆頭にいろいろと考えられるが、商店街の個々のお店がまだまだ魅力不足であり、努力不足による発信力の脆弱さが露呈されたということに突き詰められるのではないかと思われた。</p> <p>そこで、肝心な商店そのものの魅力を掘り起こしながら「存在感」を発信していく作業が、遅まきながらも必要不可欠であると再認識し、商店街の活性化を発信事業に注力することによって実現させていくこととした。</p>
	<p>内容</p> <p>1. 商店街店舗紹介冊子の制作</p> <p>中込商店街の各店舗を紹介するための冊子を、持ち運びにも便利なA5サイズのフルカラー100ページの仕様で、編集、製作した。</p> <p>この冊子は、新聞折込チラシのような一過性のものとは明確に一線を引き、電話帳のように長期間各家庭に保存していただける情報発信ツールとして位置づけ、表紙には「保存版」という三文字を目立つように表示した。</p> <p>そのために、商店街の地図のみならず、イベント情報、近隣の公園紹介、公共施設案内、さらには各地域避難場所等の生活に密着した情報の同時掲載も実施し、付加価値を加えた。</p> <p>2. 中込中学校生徒との連携</p> <p>冊子制作にあたっては、地元中込中学校における総合的な学習の時間(1年生は50時間、2年生・3年生は70時間)を利用して、3学年の2組(担任 矢澤聡先生)、4組(担任 井出岳先生)の2クラス併せて60名の生徒さんに中込商店街各店を始めとした取材対象にインタビューアールとして向き合っていただき、さらにはその後の記事作成、編集を通じて本事業への参画をいただいた。</p> <p>3. 冊子の作成、配布</p> <p>冊子は8000冊を作成した。その内訳は、商店街各店での手配り用に540冊、商店街内休憩スペース(銀座ほんわ館、ケイジンほっとてらす)用に100冊、佐久商工会議所用に60冊、佐久市役所用に10冊、地元中込、平賀、内山地区の各戸ポスティング用に6660冊、さらには参加生徒と学校用に63冊の合計7433冊を配布し、残りは予備用として商店会事務所に保管している。</p> <p>また、商店街内に位置し冊子内でも詳しく紹介している、公共施設の中込会館、サングリモ中込にも置いていただけるよう市役所の広報情報課を通じてお願いしているが、各施設が休館状態の現段階では「折を見て」という回答になっており、残念ながら実現には至っていない。</p> <p>なお、作成に深く関わっていただいた生徒さんによる商店街各店への配布は学校側のご理解ご協力も得て、2月28日の放課後に実施する予定をしていたが、政府からの新型コロナウイルスによる一斉休校の要請を受けて、不幸にも急遽中止となった。</p>

事業の活動実績	<p>従来の中込中学校の総合的な学習は、一年生が「地域を知る」ということで自由なテーマでの学習を、二年生は「地域で働く」で職場体験を、そして三年生は「地域に貢献する」で福祉施設での体験を実施してきたそうだが、今回の中込商店街とのコラボレーションは、これまでの学年ごとの枠組みを取り払ったクラス単位での取り組みも面白く、意義深いのではないかと、前例に囚われない柔軟な対応を検討いただいた結果、前述の3学年の中の2クラスによる取り組みとなった。</p> <p>そんな背景の中、いきなりの冊子制作のための取材では中学生だけでは難しいだろうということで、まずは本企画担当の大塚副理事長が事前段階で中込中学校にお邪魔し、中込商店街の歴史、現状さらには今回のお願いの意図を説明してきた。学校側でも佐久市や長野県を通じて商業に関する数値的データ等を学び、自主的な事前学習を積み重ねてくださったと、先生からもお聞きした。そんな様々な場面を通じて湧き上がる、多方面からの疑問を抱きながら、調査、探求の上で事を為すという一連の過程を経れば、総合的な学習の完遂に繋がり、モデル的な事業となったはずである。</p>
---------	---



別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・中込商店街来街者の増加 目標年度H31 対H30比10%増 実績 対H30比5%増 ・地元三地区の地域住民に、商店街各店の存在並びに魅力を再認識していただき、恒常的な購買行動を呼び起こす起爆剤となった。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>1 できた ② 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p> <p>中込中学校の全面的なご理解とご協力の下、発行時期を除けば、計画通り実施できた。</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>① できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p> <p>各方面から、「見たよ」「いい冊子ができたね」といった、お褒めの言葉をいただいただけでなく、実際に冊子を見ての来店客が増えたとの報告が複数のお店から上がっている。</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>① ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ）</p>

その他、評価すべき点等	
-------------	--

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自已診断です。

今後の事業展開	<p> 同等の事業を継続するのではなく、中学生の職場体験やまちゼミへの参加などを通して、いろいろな方法で商店街が学びの場、発表の場として活用されるよう工夫して継続していく。さらに、取材をしていただいたお店側としては、これまで以上にお店の魅力を高めることに注力し、商店街としては本冊子制作を目的でなくあくまでも手段として捉え、保護者を始めとした地域住民の方にお店を訪れていただけるよう、街を挙げて不断の努力を重ねていくこととする。 </p>
---------	---